

3世代が繋ぐ、背広の浪漫 ツキムラ物語

奈良の町で、親から子へと繋いでいった「洋服店」。そのタスキを受け取った現社長 岸伸彦氏の記憶と共にツキムラの歩みについて取材してきました。



岸社長

ツキムラの歩み

2011年 FM滋賀のロビーにて展示会
神戸モザイクにて展示会
京都ゼスト御池店
100日店舗オープン
東生駒店をリバーサイドテラー
東生駒としてリニューアルオープン
けいはんなプラザ店を京都精華本店
としてリニューアルオープン
岸伸彦氏が三代目
「月村三五朗」を襲名

時代背景

「アースマラソン」に挑戦していた
間寛平さんが大阪にゴール
東日本大震災が発生
英ウイリアム王子と
ケイト・ミドルトンさんが結婚
アルカーイダの最高指導者
ウサマ・ビンラディンが死亡
地上デジタル放送へ移行
サッカーのFIFA女子ワールドカップ
ドイツ大会でなでしこジャパンが世界一

大正14(1925)年、奈良町の一角で創業された「ツキムラ洋服店」。その3代目として生まれた岸氏。20代で店を担い株式会社ラガゾットを設立。事業を拡大し、「3着5万円のバタインオーダースーツ」を開発。ラジオCMと共に、世間にその名が広まっていた。



1945年頃先代社長

岸伸彦氏が 三代目ツキムラを継ぐ 「月村三五朗」を襲名

岸氏の中で、三代目ツキムラを正式に継ぐということは大きな意味を持つていた。もちろん、既に社長ではあったが、会長である母から「月村」という名前を受け継ぐことが、岸氏のひとつのけじめでもあった。85年の大きな節目といふこと、既製品のスーツが主流となったこの時代に、3着5万円のバタインオーダースーツを開発し、背広の価値を再発見してもらえ、ことに貢献できたこと。それを会長に認められて三代目を襲名することになった。「それと、社名はラガゾット、店名はツキムラ、名前は岸とバラバラなことに、ずっと違和感があったんです」と岸氏。この際、どうせなら3着5万円にちなんだ名前にするのはどうかとの案が持ち上がる。会長を含めみんなで話し合った結果、3着5万円を象徴した名前「月村三五朗」に決まった。

「襲名」が決まり、自然とイメージがリンクしたのは「落語」。4、5年前から落語家と共にラジオのパーソナリティをしているという馴染みがあった。また、「落語が上手く聞えるためには、枕の話も上手くなくては」という桂ざこばさんが若手落語家を集

めた「枕の会」を主宰していて、その優勝トロフィーならぬ「優勝枕」をツキムラの会長が手作りしたことを桂ざこばさん執筆の「桂ざこばのざつこばら」で紹介されたという縁。さらに遡ると、岸氏自身が高校時代の落研に入っていたという縁もあった。「落研は週1回位で落語を聞くだけだったのですが、そこから何となく好きで聞くようになって。服屋が扱うのは布、落語家は話ですが、どちらも無から作り上げていくことが一緒だからか、よく似た悩みや価値観や、共通点があつて、さほど遠い業界に思えなかった。だから、落語の襲名儀式もごくごく身近に感じていたんです」。

落語の舞台である高座は落語家にとって神聖な場所。素人がそこに上るのは本来ならご法度というイメージがあったが、今までの岸氏との交流もあり、桂ざこばさんに寄席「動楽亭」で襲名の許可を得た。それに加えて後見人も引き受けてくれた。

7月28日、大阪市動物園前の動楽亭に続々と関係者・家族・取引先の会社の人が集まってきた。後見人として引き受けてくれた、桂ざこばさん、桂雀太さん、桂ちよよばさんと4人並んで高座に座った。いよいよという緊張が半分、期待半分の中、さーっと幕があくと、意外なほど来ている人の顔ぶれがはざりと見えた。一人ひとりと思

い出話をすれば、1時間でも2時間でも話ができるほど、様々な想いがこみ上げてきた。父が亡くなり、周りの人に父親の背中を見せるがごとく、ひたすら前を向いて走ってきたが、ようやく晴舞台で振り返ることができた。今日まで35年、ツキムラが歩んできた85年、ツキムラを支えてくれた人たちが笑顔で迎えていてくれる。「これだけの人がこの業界に携わっている。日本で120年間伝わってきたこの業種を、もっとちゃんとした形にして次の世代にバトンをつなげていかなければ、僕はリーダーとしてはなく、「一緒に肩を組んでいきたい」。

襲名の場に集まった仲間たちと共に、オーダーメイドスーツの業界を次世代へ繋いでいく。その使命を改めて感じた日でもあった。

